

第18回「聞き書き甲子園」は、
全国の高校生と農山漁村をつなぐ活動にリニューアル
～協力市町村を公募し、「地域文化の継承」「次世代育成」「関係人口の創出」に寄与～

「聞き書き甲子園」実行委員会（農林水産省等で構成）は、本年6月28日より、同甲子園の開催に協力する「市町村」を公募します。

「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が、森・川・海の「名人」を訪ね、その知恵や技（わざ）、生き方を「聞き書き」し、記録・発信する活動です。

次年度（2019年度）、第18回開催を迎えるにあたり、「名人」の「なりわい」や暮らしの基盤である「地域」に、さらにスポットをあてる観点から、高校生が「聞き書き」する「名人」の推薦に協力する「市町村」を公募します。これにより「自然と向き合



う仕事の大切さ」や「地域ごとに特色ある生活文化の豊かさ」をひろめ、次世代を育成するとともに、新たな関係人口の創出に寄与します。

公募期間：2018年6月28日（木）～9月28日（金）

※本公募では、10～12の協力市町村を公募します。「地域団体」（地域自治組織や市民活動団体、事業協同組合等）が市町村を窓口として応募することや、複数の市町村が連名で応募することも可能です。

※詳細は、公募開始日に「聞き書き甲子園」や農林水産省等のwebサイトで公表します。

主催：「聞き書き甲子園」実行委員会

（農林水産省／文部科学省／環境省／国土緑化推進機構／NPO法人共存の森ネットワーク）


後援（申請中）：総務省／全国知事会／全国市長会／全国町村会／全国山村振興連盟／全国過疎地域自立促進連盟／NPO法人「日本で最も美しい村」連合ほか

※同事業は（株）ファミリーマートの募金協力・企業寄付と、複数の企業・団体の協力支援により実施しています。

お問い合わせ：〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原 301

「聞き書き甲子園」実行委員会事務局（NPO法人共存の森ネットワーク内）担当：吉野・関

電話 03-6432-6580 ファックス 03-6432-6590 メール mori@kyouzou.org

聞き書き甲子園 

市町村公募から「聞き書き甲子園」の開催まで

本公募により、協力市町村（10～12 地域）を選定。協力市町村は、それぞれ複数の「名人」（5～8 名）を推薦します。第 18 回「聞き書き甲子園」（2019 年度）は、推薦された「名人」の人数に応じて、参加高校生（70 名前後）を全国から募集します。

名人とは・・・林業、水産業、工芸など、地域の自然と関わる仕事に長年従事し、先人からの知恵や技（わざ）を受け継いできた方々です。

第 18 回（2019 年度）開催スケジュール

5 月～6 月
高校生募集



8 月 11～14 日
事前研修会（都内）



9～12 月
名人への取材・作品づくり



3 月中旬
成果発表会（都内ほか）



参加高校生が東京に集まります。「聞き書き」の手法や取材する地域や名人の仕事について学びます。



高校生が名人を訪問し、一対一で取材し、作品にまとめます。全ての作品は冊子にまとめ、関係者に配布します。



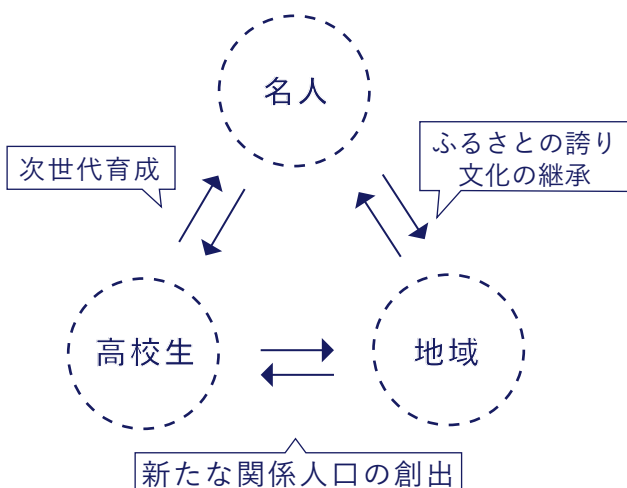
高校生が「聞き書き」を通して学んだことや、取材した地域の魅力を発表し、将来の夢や希望を語ります。

高校生と名人の出会いは、地域の元気につながります

高校生は、「聞き書き」を通して「名人」の生きざま（人生）を受け止めます。

「森が泣いている」「村が寂しくなった」と語る「名人」の思いに少しでも応えたいと、里山里海の保全や地域活性化などに取り組む、卒業生の活動も生まれました。

「聞き書き」は、祖父母の世代から孫の世代へと、生きる知恵や心をつなぐ活動です。



広がる地域づくりの輪



聞き書きを終えた高校生と地域住民が協働で地域活性化などに取り組むアクションも積極的にサポートしていきます。



「聞き書き甲子園」とは

「聞き書き甲子園」は、毎年全国 100 人の高校生が、農林水産省の関連団体により選定・表彰される森・川・海の「名人」を「聞き書き」する活動として、2002 年度（平成 14 年度）にスタートしました。次年度（2019 年度）以降は、協力市町村が推薦する複数の「名人」を、高校生が一对一で「聞き書き」する形で実施します。

「聞き書き」とは

「聞き書き」の基本は、一对一のコミュニケーションです。高校生は、「名人」との対話をすべて録音し、そのデータを一言一句、書き起こします。さらに、その書き起こしを整理し、「名人」の言葉だけを使って、その語り口を生かしながら作品にまとめていきます。

その過程で、ある高校生は言いました。

「名人の言いたいことは、いつの間にか、自分の言いたい（伝えたい）ことになってきた」

「名人」との出会いをきっかけに、自分の進路を見つめ直し、新たな一歩を踏み出した卒業生は全国各地で活躍しています。

「聞き書き甲子園」は、E S D（持続可能な開発のための教育）の事例としても高く評価されています。



photo by 奥田高文

卒業生たちの活躍

「聞き書き甲子園」実行委員会の事務局である NPO 法人共存の森ネットワークは、「聞き書き」に参加した卒業生を中心とした活動組織です。

卒業生は、作家の塩野米松氏とともに、毎年、新たに参加する高校生の「研修」をサポートするほか、各地で地域づくりや里山里海保全活動を実践してきました。

たとえば、新潟県村上市高根では、1 期生同士が結婚して U ターンし、空き家活用や棚田の保全活動を「聞き書き」卒業生とともに展開しています。「聞き書き」をきっかけに、林業の現場に飛び込んだ人。「地域おこし協力隊」として活躍する人。ふるさとに U ターンして教員となり、自分の教え子を「聞き書き」に参加させる卒業生もいます。「聞き書き甲子園」への参加は、それぞれの人生にとって大きな転換点になっているのです。

「聞き書き甲子園」は、本年度（第 17 回）の活動に参加する高校生も現在募集中です。詳細は web サイトをご覧ください。

